

第 11 回 菊川水系流域委員会

議事要旨

日時：令和 3 年 6 月 16 日（水）10:00～11:30

場所：WEB 会議

1. 開会

2. 挨拶（所長・委員長）

3. 議事

3.1 菊川水系流域委員会規約改定

- 規約（案）は了承された。

3.2 菊川水系河川整備計画の進捗状況の点検

- ・菊川下流の流下能力が低下した要因は何か。
⇒（事務局）河口部の土砂堆積の影響だが、洪水時は砂州がフラッシュされると想定している。
- ・菊川の工事後箇所でも整備計画目標流量には達していないが、今後も対策を行うのか。
⇒（事務局）令和 3 年度も引き続き掘削を行い完成断面まで工事を行う。
- ・現在の河道計画の考え方は、河口部の砂州がフラッシュされることを想定しているが、海面水位の上昇に伴い、今後砂州高も高くなることが懸念される。河口部での流下能力の低下は全体に影響を及ぼすことになるのでしっかり検討されたい。
⇒（事務局）河川整備計画では、河口潮位と砂州の高さから、出発水位を砂州の高さで決めており、近年の海面水位の上昇の影響はこの余裕の中に納まっていることを確認しているが、引き続き検討を行う。
- ・現在の河口砂州の状況は、固結化しているような状況なのか。
⇒（事務局）平成 10 年 9 月の出水では河口砂州がフラッシュされたが、近年はフラッシュされていない。今後砂州の状況と上流への影響について確認していく。
- ・水質の経年変化については年平均値を整理しているが、観測値のばらつき度合などの分析等による整理も行うとよい。
⇒（事務局）環境基準に従って、1 年間の月一回測定した 75% 値を示している。引き続き観測データの分析を進める。
- ・大井川用水からの取水以外で、利水に関する課題は確認されていないか。また、菊川流域治水プロジェクトの関係者である農業従事者とは意見交換を行ってほしい。
⇒（事務局）菊川では飲料としての利水はないため、課題は特にない。菊川流域治水プロジェクトでは田んぼ貯留を推進しているため、関係機関及び農業関係機関等との調整や意見交換を行っており、引き続き進める。
- ・河道掘削土砂の使い方や、掘削に伴う環境影響について整理しているか。低水路掘削の際には環境に配慮していただきたい。

⇒（事務局）近隣に掘削土砂の有効活用箇所があれば再利用しているが、土砂の組成が良くないものは埋立地で処分している。また、菊川では魚類の貴重種がいらないため低水路掘削では特に配慮していないが、貴重種の両生類等が生息しており配慮しながら工事を進めている。

- ・牛淵川下流（鹿島橋下流）の水面形が急変している。菊川本川の影響も受ける区間であるので、この理由について確認していただきたい。

⇒（事務局）水理計算の条件について確認する。

- ・牛淵川では近年、水質環境基準を満足しているものの水質が悪い方向で安定しているように思う。どういう状況なのか。

⇒（事務局）75%値の評価では環境基準を満たしている状況ではあるが、観測データそのものを分析して、汚濁源について関係機関と連携して確認していきたい。

3.3 菊川水系直轄河川改修事業の再評価

- ・前回評価に比べ、費用対便益比が大きくなった要因について説明されたい。また、当面事業の費用対便益比が大きい理由について説明されたい。

⇒（事務局）令和2年度のマニュアルの改訂により、一般資産と公共土木の便益が増えたことが主な要因である。また、当面事業の費用対便益比が大きい理由は、主に河道掘削を実施するため、効果が出やすいからである。

- ・現在の工事実施箇所の途中段階について、どのように整備を進めていくのかを説明いただきたい。現状での評価を住民等にしっかり伝えていくことが重要である。

⇒（事務局）1日も早く河川整備計画に基づき行うよう努めるが、河川整備には時間がかかることから、関係機関と連携して情報を共有し早く避難がなされるようにしていきたい。

- ・菊川のように川幅が小さい河川では、200m 間隔の横断形状での評価より、もう少し細かい間隔で評価してはどうか。

⇒（事務局）200m 間隔の評価に関しては、適切な評価を検討していきたい。

- ・菊川では植生の再繁茂が一気に広がると、これまでの事業効果が大きく低下することが考えられる。除草の頻度を増やすなど、他の河川とは違う管理方法なども考える必要がある。

⇒（事務局）植生の再繁茂対策については、引き続き検討していく。

- ・近年、県や市によるため池対策が進められているため、面的な治水対策も進めるとよい。

⇒（事務局）昨年度策定した流域治水プロジェクトに沿って、流域関係者と認識を共有しつつ、流域対策を進めていく。

- ・海面水位の上昇と河口部の土砂堆積が懸念される現状で、現計画のまま事業を進めることでよいのか。

⇒（事務局）河口部の砂州の影響については、現計画に対する影響等を整理、検討していく。また、気候変動による影響については、全国的に河川整備計画の見直しに向けた検討が進められており、計画見直しの際には海面の水位上昇や砂州の拡大による影響を反映させるように検討を進める予定である。

- ・河口砂州は海の条件と川の条件で形成される。また、海面上昇だけではなく波浪等の影響もあるので、難しい課題ではあるが、今後も検討を進められたい。

- 菊川水系直轄河川改修事業の事業評価の原案は了承された。

4. 閉会

5. 出席者リスト

■委員：6名

氏名	専門分野	所属・役職	備考
絹村 敏美	農業水利	静岡県土地改良事業団体連合会 専務理事	
渋澤 博幸	経済	豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 教授	
末次 忠司	水工水理学	(元)山梨大学大学院 総合研究部 工学域土木環境工学系 教授	委員長
溝口 敦子	河川工学	名城大学 理工学部 教授	
道林 克禎	水質	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授	
山田 辰美	環境	常葉大学 名誉教授	副委員長

※赤川委員（欠席）

■事務局（国土交通省浜松河川国道事務所）

氏名	所属・役職	備考
吉田 敏章	国土交通省 浜松河川国道事務所 事務所長	
黒田 英伸	国土交通省 浜松河川国道事務所 副所長	
船戸 総久	国土交通省 浜松河川国道事務所 調査課長	